

リンゴ新品種 ‘スリムレッド’について

誌名	群馬県園芸試験場研究報告
ISSN	1342453X
著者名	中條,忠久 堀込,充
発行元	群馬県園芸試験場
巻/号	1号
掲載ページ	p. 13-19
発行年月	1995年3月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



群馬県園芸試験場研究報告 第1号 (1995)

検索語：リンゴ・育種・新品種

リンゴ新品種 ‘スリムレッド’ について

中條忠久・堀込 充*

要 旨

群馬県園芸試験場北部分場において、育種した ‘スリムレッド’ の育成経過と特性の概要は以下の通りである。

1. 本品種は1971年 ‘ふじ’ × ‘あかぎ’ の交配実生36個体の中から選抜、育成した。1981年に一次選抜、1991年二次選抜を行い、翌年、優良個体と認め、系統番号GAC-3号を付して種苗登録を申請した。1995年3月、登録番号4298号として品種登録された。
2. 樹勢は中間型で、樹の大きさ、節間長は中位であるが、樹勢はやや弱く、枝梢も細い。短果枝の着生は良好である。斑点落葉病に対してはかなり強い耐病性を有し、生理障害の発生も極めて少ない。
3. 果実は10月下旬～11月上旬に成熟し、果実の大きさは180g前後の小玉で、果形は筒状の長円形で、果形に特徴がある。果皮は鮮紅色に着色し、縞は明瞭である。甘酸適和で果汁が多く、濃厚な食味を有する。貯蔵性も高い。

緒 言

群馬県園芸試験場北部分場における第一次リンゴ新品種育成試験は1962年に開始され、この中から ‘あかぎ’ や ‘陽光’ を育成し、普及に移した²⁾³⁾⁷⁾。第二次リンゴ新品種育成試験は1971年に開始され、交配親として第一次新品種育成試験で育成された ‘あかぎ’、‘陽光’ などを用いたが、中晩生の生食用耐病虫性優良品種の育成を目的として実施した¹⁾⁷⁾。

1995年3月、系統番号GAC-3号が ‘スリムレッド’ として命名され、種苗登録されるに至ったので、ここにその育成経過と特性の概要につい

て報告する⁴⁾⁵⁾⁶⁾。

この報告がそれぞれの地域において、試作栽培の一つの尺度として役立てば幸いである。

育 成 経 過

第二次リンゴ新品種育成試験は1971年に開始され、中晩生の生食用耐病性優良品種の育成を目標として実施した⁷⁾。

この第二次新品種育成試験の特徴は、前述のごとく第一次新品種育成試験において選抜された ‘あかぎ’、‘陽光’、‘群22号’ を交配親としたことで、これらと当時の主要品種である、‘ふ

*北部分場

じ'、'ゴールデンデリシャス'、'スターキングデリシャス' '祝' '紅玉'との相互組合せにより交配を実施し、500余本の交配実生を得た⁴⁾⁵⁾⁶⁾。

'スリムレッド'は'ふじ'×'あかぎ'の交配実生36個体の中から選抜育成したものである。1981年に一次選抜、翌年、成木に高接ぎして品種特性検定を実施した。さらに1986年にM.26台に接木して特性の検定を実施した。その結果にもとづいて1991年に二次選抜を行った⁴⁾⁵⁾⁶⁾。

翌年、その特性が優れていることから、系統番号GAC-3号を付して種苗登録を申請し、1995年3月、登録番号4298号として品種登録された。

特 性 の 概 要

1. 形態的特性

(1) 樹 体

樹姿は中間型を示し、樹の大きさは中位で、樹勢はやや弱く、枝梢は細い。節間長、皮目の大きさ、多少は中位を示す。短果枝の着生は良好、えき花芽の着生は中位で、花芽は円錐～卵形を示す。

葉身の形は中間型で、葉縁に複鋸齒を有し、長さは短目で、緑色を示す。毛じは中位で、たく葉は鎌形、大きさは中位である。葉柄の長さは中位で、太さはやや細い。

1花叢の花数、大きさは中位で、蕾の色は淡桃色、花卉の形は卵形、花卉数と雄ずいの数は中位である。やくの色は黄色で、花粉は多い。

(2) 果 実

果実の形は筒状の長円形を示し、王冠は弱い。果実の大きさは小さく、180g前後である。

がくあ開閉、深さは中位であるがやや狭い。こうあの深さ、広さとも浅くて狭い。果皮は鮮紅色に着色し、縞は明瞭である。果実のさびの発生は少なく、果点の大きさ、密度は中位でさび状果点はない。果皮の粗滑の程度、光沢、蠟物質の発生は中位で、果粉の発生はない。

果梗は長く、細い。肉梗はない。果心は小さく、円形で、心室数は一般品種と同等である。果肉の色は黄白色を示し、果肉の硬さ、きめは中位で、褐色化はやや強い。蜜入りは少なく、糖度は14～15%である。酸度は0.5%前後で果汁が多く、食味は良好である。種子の形は倒卵形で、大きさは中位である。

2. 栽培的特性

(1) 樹 体

育成地における発芽期は3月下旬～4月上旬、開花期は4月下旬～5月上旬で一般品種とほぼ同等であるが、年によりやや早まることがある。早期結実性は中位である。自家結実性は低いが、一般品種との交配親和性は問題がない。

本品種はややスパータイプ的な生育を示すことから、わい化栽培においては主幹からの側枝数はやや多目に残し、それぞれの側枝は細めの二等辺三角形となるように整枝剪定をする。

(2) 果 実

栽培地や栽培条件によって左右されるが、成熟期は10月下旬～11月上旬でやや晩生種である。果実の大きさは180g前後の小玉であるが、結実数は多く、成木の10a当たりの収量は2.5t前後が見込まれる。

本品種の良品生産のためには、やや斜立した側枝に結実させることがよく、果実の玉伸びや外観、着色を良好にする。反面、下垂枝に着果した果実は小玉で品質が劣る。そのため、結果枝は強めに維持し、良品生産に努め、下垂した結果枝は早めに更新する必要がある。

普 及 適 応 地 帯

前述したように、果実は特殊な形状と大きさを有する品種であることから一般市場向けの栽培は危険である。そのため、多様化社会における特殊な用途向けの品種として活用する。

栽培面においては主要病害である斑点落葉病に

対してかなり強い耐病性を有し、生理障害、果面障害などの発生が極めて少ないこと、さらに貯蔵性にも優れていることから、比較的温暖地において適応性が高いと考えられる。

寒冷地においてはもともと小玉であるから、適応性は低いであろう。

栽培上の留意点

これまでに述べてきたように、特殊なリンゴであることから、本品種の大規模生産は慎重、多様化社会の対応のため多品目少量生産の一品種として位置づけたい。

栽培に当たっては、M.26台などを使用した、わい化栽培を基本とし、10a当たり120本程度(4.0×2.0m)の栽培密度が適当と考えられる。主幹より発生する側枝本数はやや多目とし、やや斜立させて結実を促進する。側枝は細めの二等変三角形とし、余分な発育枝は剪除するように心がける。

主要病害の斑点落葉病に対して耐病性に優れ、生理障害などの発生も少ないことから、無袋栽培が容易であり、省力品種として活用できる。

引用文献

1. 中條忠久・上村勇美・佐藤三郎, 1971
昭和45年度果樹品種に関する試験打ち合わせ会議資料(リンゴ部会): 9~10
2. 中條忠久・上村勇美・佐藤三郎, 1973
‘ゴールデン・デリシャス’の実生選抜による新品種の育成について. 園芸学会春季大会研究発表要旨: 96
3. 中條忠久・上村勇美・佐藤三郎, 1973
リンゴの新育成系統‘群7号’、‘群22号’、‘群24号’について. 群馬県園芸試験場報告第2号
4. 中條忠久・堀込 充, 1990
果樹系統適応性. 特性検定試験成績検討会資料

(寒冷地 果樹): 123~124

5. 中條忠久・堀込 充, 1991

同上資料: 129~130

6. 中條忠久・堀込 充, 1991

同上資料: 101~102

7. 中條忠久, 1993

リンゴ品種改良の方向と展望(8)

群馬県におけるリンゴ育種の現況:

49~53青森県りんご協会

表1 'スリムレッド' 特性調査結果 (1991年度)

樹姿	樹勢	発芽日	展葉日	満開日	生理落果	収穫期	生産力	果重 (g)
中位	やや弱	3月31日	4月13日	4月29日	早期落果 後期落果ともに無	10月25日 ~11月5日	中	160 ~210

形状	玉揃い	着色	さびの 発生	硬度 (P)	糖度 (%)	酸度 (g/100ml)	果肉の 肉質
長円	中	鮮紅色 縞明瞭	少~無	13.7	14.4	0.48	中 やや粗

果汁	香気	蜜入り の多少	心かび の発生	脂質	粉質化	貯蔵性	生理障害	耐病性
多	少	少	少	少	難	高	少~無	斑点落 葉病強

(Key Words : Apple, Breeding, New cultivar)

A New Apple Cultivar 'SLIM RED'

Tadahisa NAKAJO and Mitsuru HORIGOME

(Gunma Horticultural Experiment Station)

Summary

In 1971, the second apple breeding program started, aiming at improving the fruit quality and also providing it the good resistance to diseases and insects. A new selection named 'SLIM RED' has been introduced. The details of the origin and characteristics of 'SLIM RED' are summarized as follows.

1. Origin

'SLIM RED', the cross between 'FUJI' and 'AKAGI' was made in 1971. The first selection of it was made in 1981 from a family of 36 seedlings, the second in 1991, and it passed the test under the designation 'GAC-3' in 1995. It was named 'SLIM RED' and registered as No4298 by the Seeds and Seedlings Law of Japan.

2. Tree

The tree of 'SLIM RED' with medium shape is not so vigorous. The twig is slender. The length of internode and the lenticel size are medium. It blooms at the same time as 'FUJI' and 'AKAGI'. 'SLIM RED' seems to be resistant to *Alternaria* leaf blotch (*Alternaria mali* ROBERT).

3. Fruit

The fruit is small, 180 g or thereabout, oblong to round in shape. The crown is weak. The fruit has bright red blush with dark red stripes on the greenish yellow surface. The quality is excellent for dessert with mild subacidness and rich sweetness. The refractometer index is about 14~15% and the malic acid content is about 0.4~0.5%. It matures in late October to early November and keeps for one month in common storage and 5 months in cold storage.



写真1 原木



写真3 結実のようす



写真2 蕾のステージ



写真3. わい化栽培の結実状況 (M26)